

授業における自己有用感を高める指導



先生の授業では、自己有用感を感じている子どもはどのくらいいますか？

生徒指導担当

えっ…、あまり意識したことはありませんでした。ねらいは十分意識しているのですが…。



授業者

利根沼田管内では、いじめ防止活動の一環として、子どもたちの自己有用感を高める取組が進められています。今回は、日々の授業（主に教科指導）における自己有用感を高める指導のポイントを紹介いたします。

ポイント：子どもが「認めてもらいたい」ところを褒めること



例えば、学習に取り組む際などに、目標や工夫する点、努力する点などを子ども自身に考えさせておき、その点からよさを見取って褒めるようにします。

【例】 小学校3年：音楽（「音楽づくり」、題材名「自分なりに工夫して、星空の音楽をつくろう」）



（みのるくん）

「はじめに一番星がきらっと光って、だんだん星が増えていき、最後はたくさんの星が輝いている」という音楽をつくりたいと思います。

どのような工夫をするか、ワークシートに書いてみましょう。

<ワークシート>

- ・一番星のきらっとした感じには、トライアングルを使う。
- ・星の数に合わせて、だんだん音量を上げる。
- ・最後は教室に音を響かせて輝く感じを出す。



<発表後>

みのるくん、トライアングルの音が星の感じに合っていましたね。星の数の変化に合わせて強弱をつけたことがとても効果的でした。強弱の工夫は友達のお手本にもなりましたね。



一番頑張ったところを先生に褒めてもらえたぞ。友達役にも立って嬉しいな。



各自の工夫点について、表現を工夫する活動の途中で意見交流させたり、つくった音楽を発表する際に相互評価させたりしても、自己有用感を高めることにつながりますね。

ポイント：一人一人の子どもが活躍できる場面をつくること



例えば、一人一人のよさや得意分野等を把握し、授業中に意図的に指名したり、「発表してみんなに教えてね。」などと授業前に個別に声をかけたりする工夫があります。

【例】<授業中> 小学校3年：書写（「点画の種類」）

あおいさん、毛筆の穂先を上手に動かして「はね」が書けていますね。みんなの前でお手本を見せてください。



<授業前> 小学校3年：理科（「昆虫と植物」）

たかしくんは昆虫博士だから、次の理科の時間のはじめに、 TENTUMシはどこなところで見かけるかを発表してくれますか。みんなのヒントになると思いますよ。

はい！

（あおいさん）



まかせといて！

（たかしくん）



学校全体で効果を上げるためには、子どものよさや得意分野等を、先生方で共有しておくことが大切です。

わかりました。このように自己有用感を高めながら、ねらいを達成できるようにしたいと思います！



自己有用感は、子ども自らが主体的に取り組む活動の中で高められます。学習を子ども主体にするということにも心がけ、取組の充実を一層図っていただければと思います。